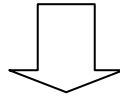


2. 具体的施策の内容と数値目標

(資料4)

○ 水需要の減少が続くなかで、効率的な施設投資や水運用を図るため、浄水場の統合に続いて給水区域の統合事業を重点的に進めることとしています。合わせて施設の老朽化対策や耐震化等にも取り組みます。



○1-4-1 鉛給水管の取り換え促進

平成19年度から単独事業として計画的に実施していますが、市内全域に点在しているため、計画値(約12.0%)の達成は困難となっています。

○1-6-2 基幹管路の耐震化

災害発生時においても医療機関や福祉施設、避難所等への給水を確保するため、早期に高める必要があります。全国や京都府平均に比べ高い水準にありますが、100%達成には長い期間と多額の資金が必要となります。

○2-1-2 配水池の統合

(資料6)

耐震性に欠け老朽化した北配水池(3,000m³)を更新するにあたり、同様の長法寺配水池(2,000m³、3,000m³)を廃止し、北配水池の跡地に将来の水需要に合わせた施設規模の配水池(4,000m³)を新設します。概ね計画どおり進捗しています。

○2-3-2 主要幹線管路の計画的更新

(資料5)

現時点では法定耐用年数40年を超える水道管が少ないことから計画値を達成しています。当面は現在の更新ペースで支障ありませんが、今後、老朽化が進むと更新率を上げていく必要があります。

○5-1-1 給水区域の統合

(資料6)

配水池の統合・更新に伴い、北及び長法寺給水区域の統合を行います。平成23年度から順次作業を行い概ね計画通り進捗しています。

○5-1-2 エネルギーの有効利用

府営水の残水圧を有効利用して小水力発電施設の整備を計画していますが、給水区域の統合事業との関係で現計画期間内での整備が困難となっています。

○5-2-1 漏水量の削減

適正水圧の管理や漏水調査の実施、鉛製給水管の取り換えなどにより、漏水量を減らし有収率等の向上を図っています。計画値の有収率91.3%や漏水率6.5%は概ね達成できそうです。